

大船渡・末崎地区における学校統合の協議経過について

1. 背景

全国的に少子化が進行する中、当市においても児童・生徒数が減少しており、将来的に児童・生徒の社会性の育成をはじめ、学校運営などに支障を来すことが懸念されています。大船渡市では、学校の規模等によって生じる教育上・学校運営上の諸問題を解決するとともに、教育環境を整え、教育の質の向上を図るため、平成 29 年 2 月に大船渡市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画を策定しました。

本計画は、平成 29 年度から令和 8 年度まで 10 年間で展望しており、令和 3 年度までの 5 ヶ年を前期、令和 4 年度からを後期として取り組んでおり、大船渡中学校と末崎中学校の学校統合協議は平成 29 年 10 月から進めています。

2. 経緯

年度	大船渡地区	末崎地区
平成 29 年 10 月～ 平成 30 年 8 月	学校統合協議会（5 回開催） ○協議結果の報告書提出 （30 年 8 月） 末崎中学校と統合することで 合意	学校統合協議会（4 回開催） ○協議結果の報告書提出（30 年 2 月） 統合することで合意 統合先は大船渡中学校
平成 30 年 8 月～ 平成 31 年 1 月	学校統合合同協議会（3 回開催） 第 1 回合同協議会 統合時期は平成 33 年 4 月で合意。統合方式は、大船渡地区は編入統合、末崎地区は大中の校舎を使用することに合意するものの新設統合を提案。 第 2 回合同協議会 大船渡地区が、校名を「大船渡中学校」とすることを条件とした、新設統合の受け入れを提案。 末崎地区は、新しい校名での新設統合を提案。 第 3 回合同協議会 大船渡地区が、校名の条件を取り下げ、統合の方式及び時期について合意し、校名等の具体的事項は推進協議会で改めて協議していくことを確認。 ○協議結果の報告書提出 2021 年（令和 3 年）4 月の統合とする 統合の方式は新設統合とする	

令和元年度	学校統合推進協議会（7回開催）
6月	<p>第1回推進協議会</p> <p>推進協議会委員委嘱後、これまでの経緯説明と今後の具体的検討事項を説明した。今後、校名・校歌・校章に係るアンケート調査を実施すること、専門部会（総務部会）を設置し、アンケート案を作成することで合意した。</p>
7月	<p>第2回推進協議会</p> <p>今後のスケジュール及び近隣（陸前高田市、釜石市）の学校統合事例を紹介した。総務部会から校名・校歌・校章に係るアンケート案の提案があり、内容、実施時期及び実施方法について合意した。</p>
8月	<p>第3回推進協議会</p> <p>総務部会からアンケート結果の説明後、集計結果の表し方について意見が分かれ、協議不十分のため公表は差し控えた。今後の方向性について、総務部会で案を作成してもらうことで合意した。</p>
10月	<p>第4回推進協議会</p> <p>総務部会から「校名等は協議で決めていく」と提案があり、その後各委員から校名2案ずつ投票してもらい、上位3校名「大船渡南中」「大船渡みなと（港）中」「大船渡中」を候補に選定し、次回協議することで合意した。</p>
12月	<p>第5回推進協議会</p> <p>校名について協議が平行線となる中、委員から保護者の立場で参加している委員で構成するPTA部会16名で協議してはどうかと提案があり、協議会はこれに合意。その後、PTA部会から提案された校名「おおふなと中学校」を、協議会で統合後の校名として承認した。</p>
1月	<p>第6回推進協議会</p> <p>PTA部会から新校名の提案の経緯と理由を説明した後、ひらがな表記の校名について、大船渡地区を中心とした住民や保護者などから、再考を求める声が多く寄せられているとの報告があり、校名と学校統合の今後の方向性について協議を行い、次回も引き続き協議することにした。</p>
3月	<p>第7回推進協議会</p> <p>再度協議・検討した結果、①学校統合については新設統合のまま進めること、②校名は白紙とすること、③次年度の推進協議会において引き続き協議すること、で合意した。</p>